

日本第四紀学会 2024 年大会（仙台）に参加、発表しました（2024/8/29-9/2）

テーマ：第四紀学、地質学、地形学、災害科学

会場：東北大学青葉山キャンパス

URL：<http://quaternary.jp/>
<https://sites.google.com/view/2024jaqua/home>

2024 年 8 月 29 日（木）～9 月 2 日（月）の 5 日間にわたり、東北大学青葉山キャンパス（仙台市青葉区）にて、日本第四紀学会の 2024 年大会が本学理学研究科と共催で開催されました。日本第四紀学会は、最新の地質時代（紀）である第四紀（約 258 万年前から現在にいたる）の自然環境や人類の歴史の理解を目的として、地質学のみならず、地理学、環境学、古生物学、植生学、土壌学、考古学、災害科学、教育学、工学など、多岐にわたる分野の研究者が集う学際性の高い学会です。自然災害や防災・減災に関する研究にも大きく貢献しています。また、当学会は日本地球惑星科学連合（JpGU）を構成する学協会の一つであり、発足は 1956 年と歴史も古く、仙台では 1988 年以来となる 36 年ぶりの大会開催となります。

本大会では、8 月 29 日（木）にアウトリーチ巡検「仙台市内の地形散策」が行われたのち、本学理学研究科合同 C 棟を会場として、8 月 30 日（金）～31 日（土）に一般研究発表が開催されました。一般研究発表では、当研究所メンバーによる発表が計 8 件（口頭発表 6 件、ポスター発表 2 件）行われました。さらに、9 月 1 日（日）に開催されたシンポジウム「東北の自然災害と第四紀学：最近の研究成果とこれから」では、菅原大助准教授（津波工学研究分野）による招待講演も行われました。加えて、9 月 2 日（月）には、専門巡検「栗駒山の火山活動と岩手・宮城内陸地震」が、遠田晋次教授と高橋尚志助教（共に陸域地震学・火山学研究分野）を案内者として実施されました。

※下線部は当研究所の構成員および学生

【一般研究発表】

口頭発表

石澤堯史・横山祐典（東京大）

「津波石に付着する海洋生物を用いたローカル海洋リザーバー効果の推定—大船渡市合足における事例—」

南舘健太（東京大）・後藤和久（東京大）・井村春生（東京大）・笠井克己（東京大）・石澤堯史・横山祐典（東京大）

「小笠原諸島のシンクホール堆積物が示す数百年スケールの熱帯低気圧活動の変動」

吉池奏乃（本学理学研究科・院）・菅原大助・石澤堯史・増田英敏（本学理学研究科・院）・エリック ベラスコレイエス（本学理学研究科・院）・南舘健太（東京大）

「海岸平野における津波侵食地形の調査とその形成に係る水理量の評価」

古明地海杜（国際航業（株）、元 本学理学研究科）・篠崎鉄哉（東京大）・菅原大助・石澤堯史・池原 実（高知大）・藤野滋弘（筑波大）

「視認困難な津波痕跡の探求～西暦 869 年貞観津波の浸水域高精度復元に向けて～」

高橋尚志・石井祐次（産総研）

「相模川中流域では最終間氷期以降に河谷の埋積は 2 回あったか？」

池原 研（産総研）・板木拓也（産総研）・長橋良隆（福島大）・里口保文（琵琶湖博）・石澤堯史・金松敏也（海洋機構）・Strasser Micheal（インスブルック大）

「日本海溝堆積物に記録された過去の海溝型巨大地震」

（次頁へつづく）

ポスター発表

山根悠輝（本学理学研究科・院）・高橋直也（本学理学研究科）

「ストリームパワーモデルに基づく活断層の活動度推定：坪沼断層の例」

諏訪貴一（本学理学研究科・院）・高橋尚志・遠田晋次・市川玲輝（パシフィックコンサルタンツ（株）、元 本学理学研究科）

「東北地方、栗駒火山における完新世の水蒸気噴火堆積物の層序と規模」

【シンポジウム「東北の自然災害と第四紀学：最近の研究成果とこれから」】

招待講演

菅原大助「2011年の東北沖津波に関する地質学的理解とその古地震研究への展開」

文責：高橋尚志（陸域地震学・火山学研究分野）



会場の理学研究科合同 C 棟



ポスター発表会場の様子



シンポジウムにて講演する菅原准教授



専門巡検にて解説をする遠田教授



専門巡検にて参加者と議論をする高橋助教